

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成24年4月26日 (2012.4.26)

【公開番号】特開2010-260925(P2010-260925A)

【公開日】平成22年11月18日 (2010.11.18)

【年通号数】公開・登録公報2010-046

【出願番号】特願2009-111508(P2009-111508)

【国際特許分類】

C 0 9 J 163/00 (2006.01)

C 0 9 J 171/10 (2006.01)

C 0 9 J 133/14 (2006.01)

C 0 9 J 125/08 (2006.01)

C 0 9 J 109/02 (2006.01)

C 0 9 J 133/04 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

B 3 2 B 27/38 (2006.01)

H 0 5 K 1/03 (2006.01)

C 0 9 J 201/06 (2006.01)

C 0 9 J 7/02 (2006.01)

【 F I 】

C 0 9 J 163/00

C 0 9 J 171/10

C 0 9 J 133/14

C 0 9 J 125/08

C 0 9 J 109/02

C 0 9 J 133/04

C 0 9 J 11/06

B 3 2 B 27/38

H 0 5 K 1/03 6 5 0

H 0 5 K 1/03 6 1 0 L

C 0 9 J 201/06

C 0 9 J 7/02 Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年3月9日 (2012.3.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) エポキシ樹脂及び / 又はフェノキシ樹脂 ; (B) エポキシ供与モノマー及び当該モノマーと共重合可能なエチレン性不飽和モノマーとを共重合してなるエポキシ含有共重合体 ; (C) ポリアミド樹脂 ; (D) 硬化剤を含む接着性樹脂組成物であって、

前記 (B) エポキシ含有共重合体が、重量平均分子量 5 0 0 0 ~ 1 0 万未満で且つエポキシ当量が 3 5 0 0 g / e q 以下である共重合体を用いる接着性樹脂組成物。

【請求項 2】

前記 (B) エポキシ含有共重合体におけるエチレン性不飽和モノマーユニットは、スチレ

ン、アクリロニトリル、及び(メタ)アクリル酸エステルからなる群より選ばれる少なくとも１種である請求項１に記載の接着性樹脂組成物。

【請求項３】

接着性樹脂組成物に含まれる樹脂成分中の前記（Ａ）成分の含有率は４０～７０質量％であり、前記（Ｂ）成分の含有率は３～２５質量％である請求項１又は２に記載の接着性樹脂組成物。

【請求項４】

前記（Ｂ）エポキシ含有共重合体におけるエポキシ基供与モノマーは、（メタ）アクリルグリシジルエステルである請求項１～３のいずれかに記載の接着性樹脂組成物。

【請求項５】

前記（Ａ）エポキシ樹脂及び／又はフェノキシ樹脂は、リン含有エポキシ樹脂及び／又はフェノキシ樹脂を含有している請求項１～４のいずれか１項に記載の接着性樹脂組成物。

【請求項６】

さらにリン系難燃剤を含み、樹脂組成物におけるリン含有率が３．１～４．５質量％である請求項１～５のいずれか１項に記載の接着性樹脂組成物。

【請求項７】

請求項１～６のいずれか１項に記載の接着性樹脂組成物の含有率が５～６０質量％の一液性接着剤溶液である接着性樹脂組成物。

【請求項８】

基材フィルム上に、請求項１～７のいずれか１項に記載の接着性樹脂組成物からなる接着層を有する積層体。

【請求項９】

請求項８に記載の積層体を含むフレキシブル印刷配線板。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１２

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１２】

本発明の接着性樹脂組成物は、（Ａ）エポキシ樹脂及び／又はフェノキシ樹脂；（Ｂ）エポキシ供与モノマー及び当該モノマーと共重合可能なエチレン性不飽和モノマーとを共重合してなるエポキシ含有共重合体；（Ｃ）ポリアミド樹脂；（Ｄ）硬化剤を含む接着性樹脂組成物であって、前記（Ｂ）エポキシ含有共重合体は、重量平均分子量５０００～１０万未満で且つエポキシ当量が３５００ｇ／ｅｑ以下である。